

## セルフスタンディングタイプ(SD) 取り扱いおよび設置説明書

このたびはスタイリストスクリーンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。  
お求めのスクリーンを正しく使っていただくため、お使いになる前に必ずこの「取り扱いおよび設置説明書」をよくお読みください。  
お読みになったあとは大切に保管してください。

## 安全上のご注意

◆ 下記のマークのある注意事項および、指示内容に関しては必ずお守りください。

### 必ずお読みください

スクリーンを正しく利用し、人や財産への損害を未然に防止するため、使い方や設置のしかたを誤ったときに生じる危害や損害の程度により次の表示で区分し、説明しています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

#### 警告

この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を表しています。

#### 注意

この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を表しています。

#### 禁止

この表示の欄は、してはいけない「禁止」の内容を表しています。



この表示の欄は、気をつけていただきたい「注意喚起」の内容を表しています。



この表示の欄は、必ず実行していただきたい「厳守」の内容を表しています。

取り扱い上の不備または天災などによって発生する事故・損傷については、当社は一切責任を負いかねます。

## 目次

安全上のご注意	1
付属品	1
本機の特長	2
各部の名称・仕様および寸法図	3
スクリーンの操作方法	4～6
基本的な使い方	6～7
使い終わったら	8～9
スクリーン面の取り扱い方法	10

#### ◆ 同梱品の確認

本機には、スクリーン本体の他に下記の同梱品が付属しています。ご使用前に内容、必要個数が入っているか確認をしてください。

A. スクリーン本体 . . . . . 1台



B. 取り扱いおよび設置説明書 . . . . . 1冊

## 本機の特長

### Colors インテリアとして選ぶ “Stylist”

機能にデザインをプラスしたKIKUCHIのコンセプトスクリーン “スタイリスト”  
あなたの個性で、また、インテリアとのコーディネートで選べる4色のケースバリエーション。

### Material

- CHANTILLY WHITE

- ◎ ピークゲイン : 0.95 ± 5%
- ◎ 半値 : 85°

従来のホワイトマットアドバンスよりも、より白色にこだわり柔らかく優しい色合いを再現。4K8K解像度にも対応し、映画鑑賞はもちろん長時間の視聴にも疲れないホワイトマットです。

- WHITE MATTE ADVANCE

- ◎ ピークゲイン : 0.85 ± 5%
- ◎ 半値 : 85°

表面処理に新開発の「ウルトラマイクロ・シボ」を採用しています。優れた解像度と黒からハイライトまでのコントラスト、豊かな色階調を再現。きめ細かく立体感にあふれた映像、自然な色彩表現をハイレベルに調和しています。迷光を抑えた暗室ではクリアで奥ゆきのある高品質な映像を再現します。

- SORBETY GLASS

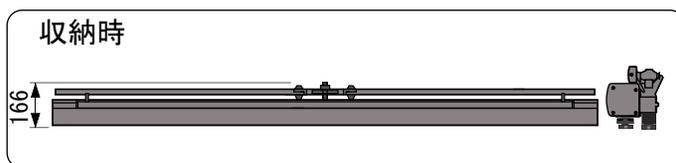
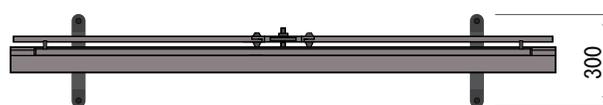
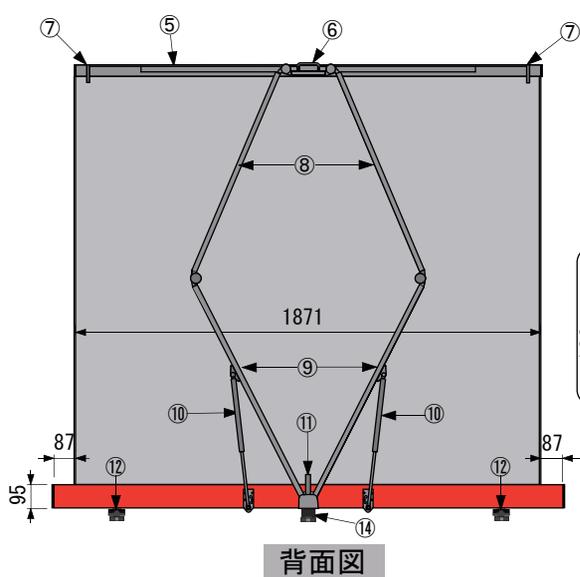
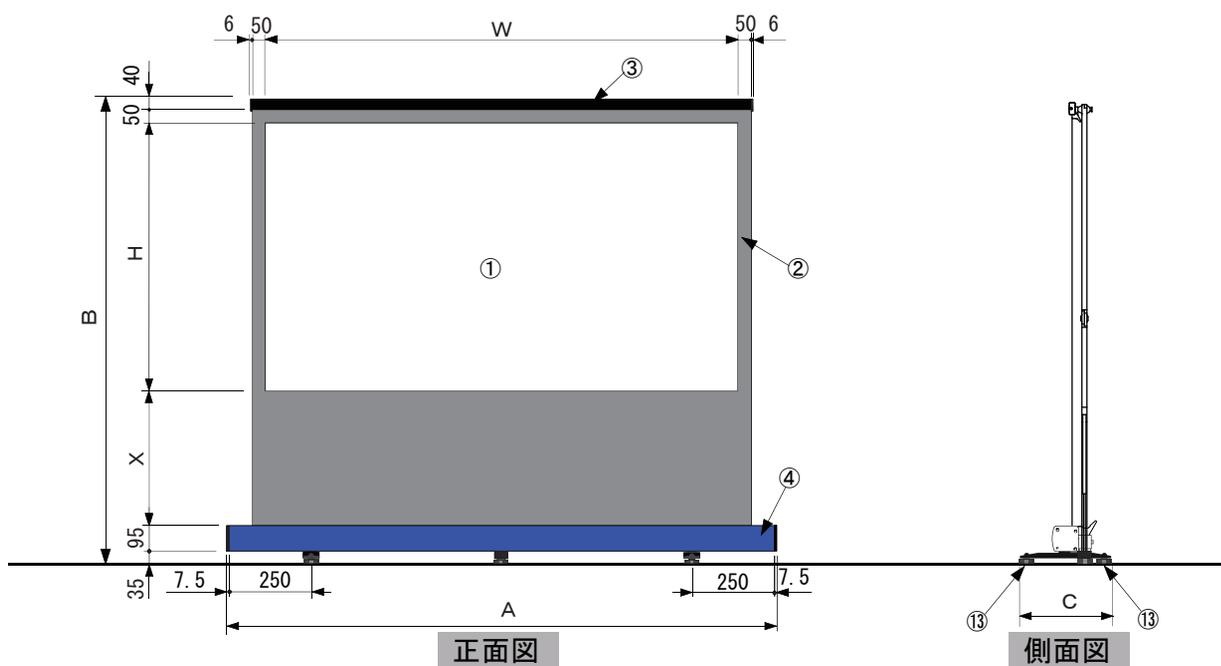
- ◎ ピークゲイン : 1.45 ± 5%
- ◎ 半値 : 40°

スクリーンの表面に特殊な調合が施された超微粒子ガラスビーズが均一に塗布されています。従来の特徴でもある「明るく切れのある画像」を継承しながらも、暗室環境では華やかで彩りある映像美、薄明りが残るリビングシアターではバランスの取れたコントラストで外光に負けないしっかりとした映像を楽しむことができます。

### Flexibility

- ・ ガストラット仕様のワンタッチアップ機構で、操作時にただ軽く引き上げるだけの簡単セッティング。
- ・ フリーストップ・ギア・アシスト機構の採用により下部マスクの範囲でお好みの高さで使用が可能。
- ・ 面倒な設置工事が不要。置くだけなので移動が可能。

# 各部の名称・仕様および寸法図



名称	①	スクリーン	⑤	ショルダーバー	⑨	ボトムアーム	⑬	フットアジャスター
	②	マスク	⑥	ハンドル	⑩	ガス・ストラット	⑭	アームアジャスター
	③	トップバー	⑦	トップバーホルダー	⑪	アームホルダー		
	④	プロテクターケース	⑧	アッパーアーム	⑫	フット		

## スクリーン規格一覧表

型番	スクリーンサイズ		下黒マスク X (mm)	外形寸法			重量 (Kg)
	W (mm)	H (mm)		A (mm)	B (mm)	C (mm)	
SD-80HD	1771	996	600	2060	1816(最大)	300	14.1
SD-100HD	2214	1245	350	2503	1815(最大)	300	16.7

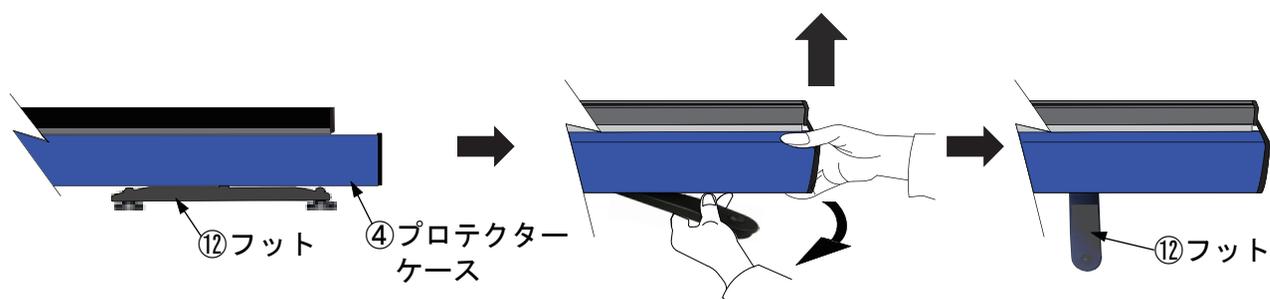
※仕様およびデザインは、改良のため予告なく変更することがあります。

## スクリーンの操作方法

### ① フットを広げます。

プロテクターケース④についている左右のフット⑫を90度回転させ、スクリーンを自立させます。

- 1-1 プロテクターケース④右側を片方の手で軽く持ち上げ、もう片方の手でフット⑫を90度回転させ床に置いてください。



- 1-2 プロテクターケース④左側も右側と同様に軽く持ち上げた状態でフット⑫を90度回転させて床に置いてください。



注意

スクリーン本体は重量がありますので、フットを引き出すときは高く持ち上げないでください。高く持ち上げすぎるとスクリーン本体の転倒や落下によってケガをする恐れがあります。

### ② スクリーンを引き上げます。

アッパーアーム⑧の上部中央に取り付けされているハンドル⑥をしっかり握ってゆっくりと必ずまっすぐ上へ持ち上げてください。



禁止

- ・ ハンドルではなく、トップバーを握って持ち上げしないでください。指をはさみケガをする恐れがあります。
- ・ アッパーアームの左右どちらかだけ持って持ち上げしないでください。アームが変型して正常に機能なくなる恐れがあります。
- ・ スクリーンを引き上げている途中で、ケース上面から800mm以内では、手をはなさないでください。この間はフリーストップ機構が機能しない範囲ですので、スクリーンが落下して破損する恐れがあります。
- ・ 異音の原因となりますので、手前に引いたり後ろに押しながらスクリーンを引き上げないでください。



注意

スクリーンを引き上げて操作しているときには、小さなお子さんがスクリーンの裏側に入らない様にしてください。裏側の下にある機構部やアームにはさまってケガをする恐れがあります。

### ③ ご希望の高さでスクリーンを止めます。

映像をご覧になりたい高さでハンドル⑥から手をはなしてください。この高さは座る椅子や用途によって異なります。詳しくは6ページ、7ページの「基本的な使い方」をご覧ください。

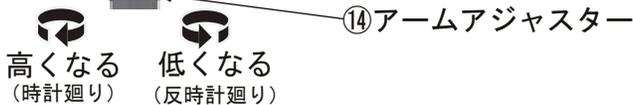
### ④ スクリーンの直立を調整します。

アーム底部のアームアジャスター⑭は、工場出荷時に一番短い位置に調整されていますので、スクリーンを引き出したときに後傾の状態になります。アームアジャスター⑭を時計回りに回転させてスクリーンが直立するように調整します。(回転させすぎて前傾しない様にしてください。)アームアジャスター⑭の調整範囲は、最大6回転高さ9mmまでです。



注意

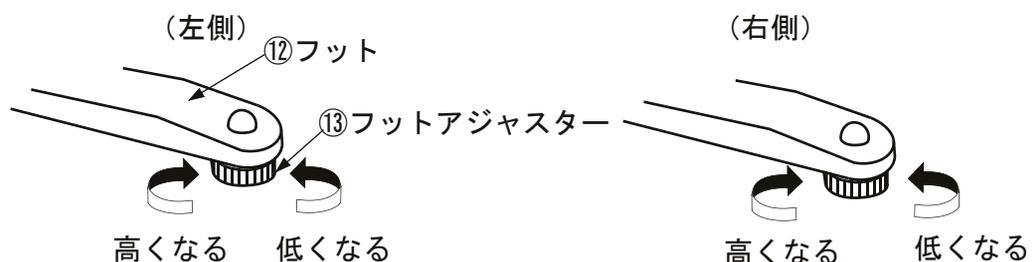
セッティングアームアジャスターの回転は必ず調整範囲内でおこなってください。



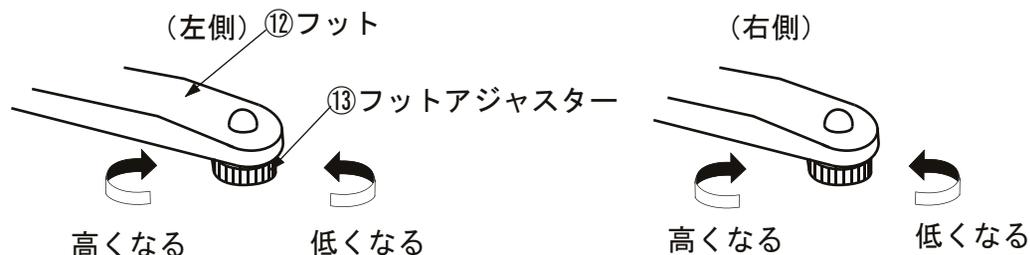
### ⑤ フットアジャスターを調整する。

設置する床面の状態によってはフットアジャスター⑬と床面の間にすき間ができてしまうことがあります。この場合はフット⑫先端のフットアジャスター⑬で調節します。(フットアジャスターは、出荷時に一番短い位置で調整されています。)また、アームアジャスターでスクリーンの直立を完全に調整しきれないときにも⑬フットアジャスターで調整が可能です。

- 5-1 フット⑫を横から見たときに前側にすき間がある場合は、前側のフットアジャスター⑬を時計回りに回転させてフット⑫の前側を高くして調整します。この状態でスクリーンが前傾している場合は、左右のフット⑫の前側のフットアジャスター⑬を同じ回数だけ回転させて高くしていき、直立するまで調整します。フットアジャスター⑬の調整範囲は最大で5回転(高さ=8mm)までです。



- 5-2 フット⑫を横から見たときに後側にすき間がある場合は、後側のフットアジャスター⑬を時計回りに回転させてフット⑫の後側を高くして調整します。この状態でスクリーンが後傾している場合は、左右のフット⑫の後側のフットアジャスター⑬を同じ回数だけ回転させて高くしていき、直立するまで調整します。フットアジャスター⑬の調整範囲は最大で5回転(高さ=8mm)までです。



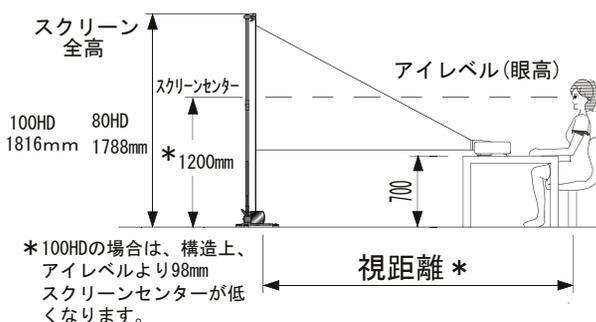
 フットアジャスターの回転は必ず調整範囲内でおこなってください。

## 基本的な使い方

スクリーンで映像をご覧になるとき、スクリーンセンターがアイレベル(眼高)とほぼ同じ高さになるようにスクリーンの高さを調整する必要があります。この高さは座る椅子や用途によって異なります。

### ■ホームシアターユースの場合

- ・ダイニングなどの椅子でご覧になるとき

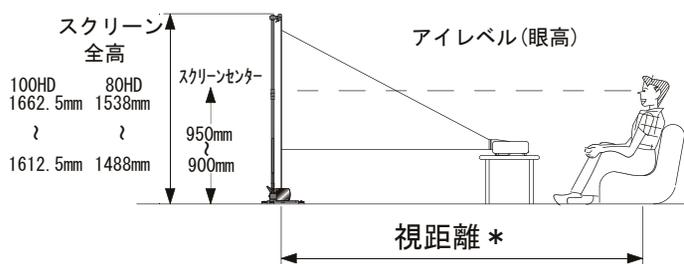


#### \* 視距離

プロジェクターの投射距離によって変化しますが、およその目安として画面高さ(H)の2倍から4倍の間となります。

ダイニングなどの椅子に座ったときのアイレベルの高さは、およそ1200mmとなりスクリーンセンターをこの高さに合わせる場合は、下部マスクの長さを80HDでは572mm(スクリーン全高=1788mm)に設置するとほぼ同じ高さになります。100HDでは最大の350mm(スクリーン全高=1816mm)に設置すると機構上の制約からスクリーンセンターは、98mm低い1102mmになります。

- ・ソファなどでご覧になるとき

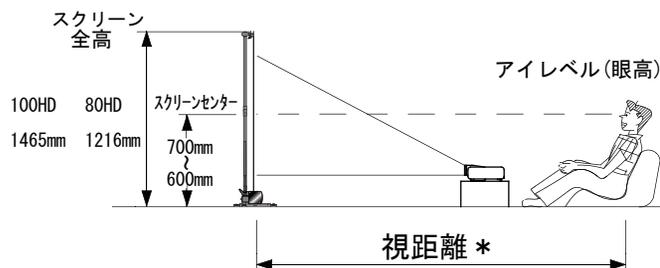


#### \* 視距離

プロジェクターの投射距離によって変化しますが、およその目安として画面高さ(H)の2倍から4倍の間となります。

ソファなどに座ったときのアイレベルの高さは、およそ900~950mmとなりスクリーンセンターをこの高さに合わせる場合は、下部マスクの長さを80HDでは272~322mm(スクリーン全高=1488~1538mm)、100HDでは147.5~197.5mm(スクリーン全高=1612.5~1662.5mm)に設置するとほぼ同じ高さになります。

・カウチ(座椅子)などでご覧になるとき



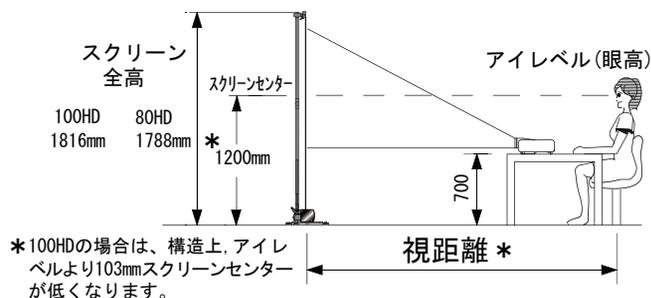
\* 視距離

プロジェクターの投射距離によって変化しますが、およその目安として画面高さ(H)の2倍から4倍の間となります。

カウチ(座椅子)などに座ったときのアイレベルの高さは、およそ600~700mmとなりスクリーンセンターをこの高さに合わせる場合は、下部マスクの長さを80HD・100HDともに0mm(マスクが見えない状態)に設置するとほぼ同じ高さになります。

■ ビジネスユースの場合

・オフィス用椅子などでご覧になるとき



\* 視距離

プロジェクターの投射距離によって変化しますが、およその目安として画面高さ(H)の2倍から4倍の間となります。

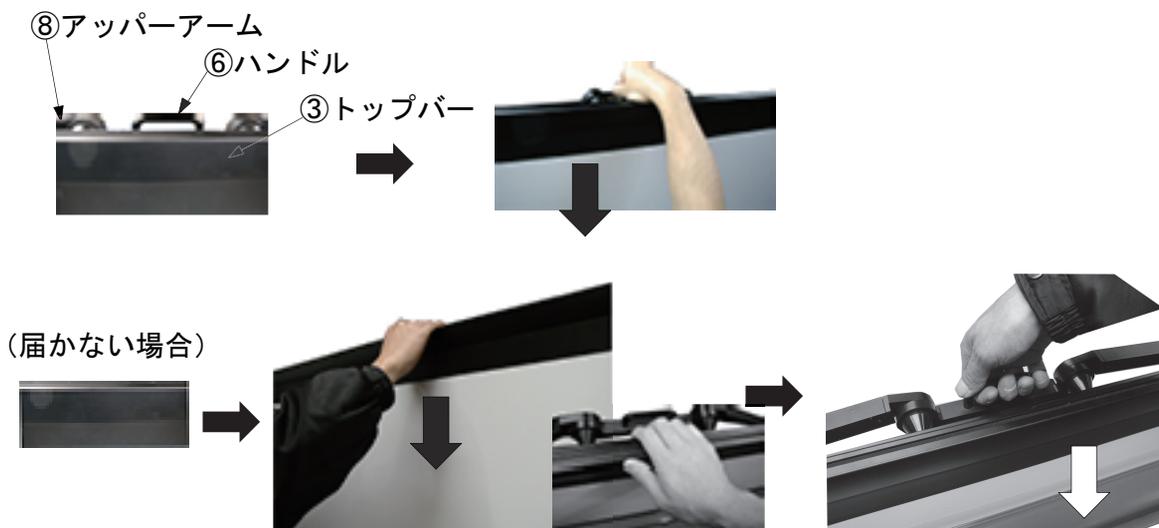
オフィス用の椅子に座ったときのアイレベルの高さは、およそ1200mmとなり、スクリーンセンターをこの高さに合わせる場合は、下部マスクの長さを80HDでは572mm(スクリーン全高=1788mm)に設置するとほぼ同じ高さになります。100HDでは最大の350mm(スクリーン全高=1816mm)に設置すると機構上の制約からスクリーンセンターは、98mm低い1102mmになります。

## 使い終わったら

映像を見終わったら、スクリーンを収納して保管します。

### ① スクリーンを下げます。

- 1-1 アッパーアーム⑧の上部中央に取り付けされているハンドル⑥をしっかり握って、ゆっくりと下へおろします。万一ハンドル⑥まで手が届かない場合は、トッパー③の中央上面の平な所に軽く手を添えてハンドル⑥が握れる位置までゆっくりおろし、ハンドル⑥が見えたらしっかり握って、必ずまっすぐに下までおろしてください。



禁止

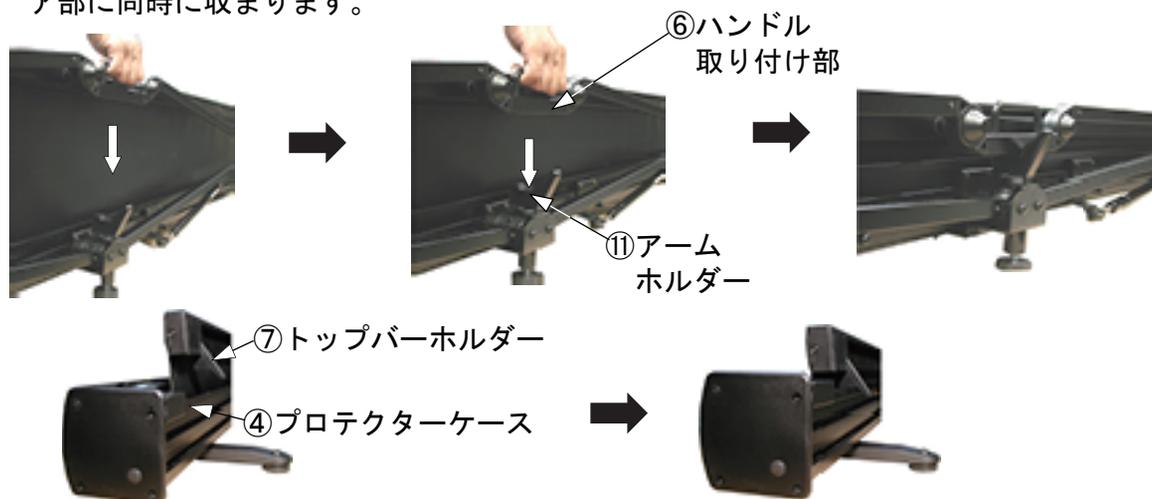
- ・ トッパーを握っておろさないでください。指をはさみケガをする恐れがあります。
- ・ アッパーアームの左右どちらかだけや側面をもっておろさないでください。アームが変型して正常に機能なくなる恐れがあります。
- ・ スクリーンをおろしている途中で、ケース上面から800mm以内では、手をはなさないでください。この間はフリーストップ機構が機能しない範囲ですので、スクリーンが落下して破損する恐れがあります。
- ・ 異音の原因となりますので、手前に引いたり後ろに押しながらスクリーンをおろさないでください。



注意

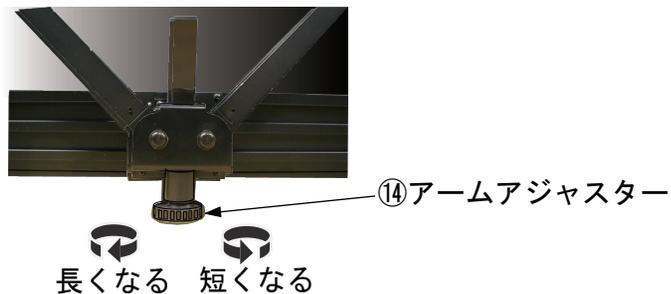
スクリーンをおろして操作しているときには小さなお子さんがスクリーンの裏側に入らない様にしてください。スクリーン裏側の下にある機構部やアームにはさまってケガをする恐れがあります。

- 1-2 ゆっくりおろしていくと、ハンドル⑥取り付け部がアームホルダー⑪の傾斜に沿って所定の位置に収まり停止します。トッパーホルダー⑦もプロテクターケース④のリア部に同時に収まります。



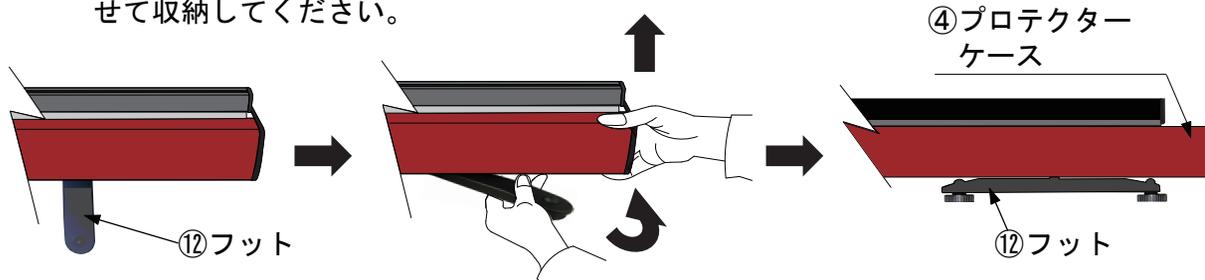
## ② アームアジャスターを収納します。

ボトムアーム⑨底部のアームアジャスター⑭を一番短い位置まで回転させ収納してください。



## ③ フットを収納位置にもどします。

3-1 スクリーン左側を片方の手で軽く持ち上げ、もう片方の手でフット⑫を90度回転させて収納してください。



3-2 スクリーン右側も左側と同様に軽く持ち上げた状態でフット⑫を90度回転させて床においてください。

## ④ 保管します。

部屋の隅などの日常生活に支障のない場所に保管してください。



スクリーンをご使用にならない場合は必ず、水平に保管してください。立てかけたまま放置しないでください。転倒によりスクリーンが傷ついたりケガする恐れがあります。

## ⚠ 注意

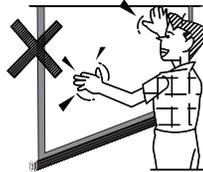
スクリーン面は反射性能を強化するために、スクリーン表面が特殊な構造となっています。傷や汚れがつくと、映写効果を損なう恐れがありますので、次のことに十分注意をして丁寧にお取り扱いください。

### 使用上のご注意

- スクリーン面に手をふれないでください。



禁止



- ケースは絶対にあけないでください。故障のときはお買い上げ店にご相談ください。



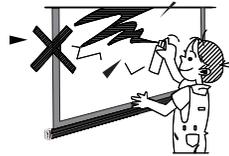
分解禁止



- スクリーン面に文字などを書かないでください。スクリーン面に書かれたものは、筆記用具の種類を問わず消すことができません。



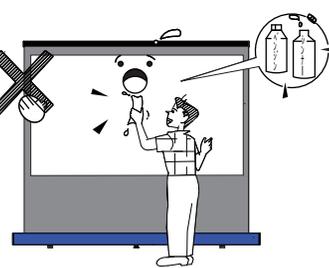
禁止



- 水を湿らせた布やベンジン、シンナーなどでスクリーン面をふかないでください。スクリーンの表面が変質します。



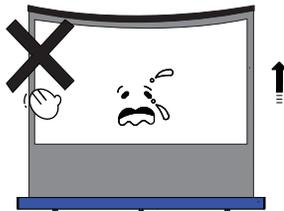
禁止



- スクリーンを無理に引き上げないでください。スクリーンが脱落する恐れがあります。



禁止



### お手入れのしかた

- ケースの汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布を絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。



- スクリーン面のほこりをとるときは、柔らかいブラシで軽く払ってください。



### 保管についてのご注意

- 直射日光の当たる場所、ホコリや湿気の多い場所や熱気具のそばなど、直接熱が当たる場所は変形・故障や事故の原因となります。また、高温の車中への放置もさけてください。



株式会社 キクチ科学研究所

本社 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-35  
TEL.03-3952-5131(代) FAX.03-3953-0051

大阪営業所 〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-5-2  
四ツ橋新興産ビル100B号

TEL.06-6567-9035(代) FAX.06-6567-9036  
<http://www.kikuchi-screen.co.jp/>  
KIKUCHI SCIENCE.LAB © 2022.05 SD RW